

アフリカ経済の資金調達に関するフランス主催首脳会合
(令和3年5月18日)
菅総理ビデオメッセージ

(冒頭)

マクロン大統領、御列席の皆様、

まず、この時宜を得た会合の開催にあたり、マクロン大統領のイニシアティブに敬意を表します。

我が国は、四半世紀以上にわたり、アフリカ開発会議、いわゆるTICADを通じて、アフリカへの連帯を示し、その自律的な成長を力強く後押ししてきました。

新型コロナがアフリカにも甚大な影響を及ぼす今こそ、国際社会は、多国間主義の重要性を再認識し、アフリカへの連帯を新たにすべきと考えます。

そうした観点から、三点申し上げます。

(資金調達)

第一に、国際社会は、必要な資金調達に向け、団結すべきです。

特に、「ワクチンへの公平なアクセス」の確保は、喫緊の課題です。そのため、私は、6月に「COVAXワクチン・サミット」をGaviと共催します。日本は、既に拠出した2億ドルに加え、できる限りの貢献を行う考えです。

同時に、人間の安全保障の理念に立脚し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成すべく、アフリカを含む途上国のワクチンの接種体制を構築する「ラスト・ワン・マイル支援」を進めます。

経済回復の鍵となる債務問題に関しては、官民全ての債権者が、G20の「債務支払猶予イニシアティブ」や「共通枠組」に基づく債務措置に、透明性のある形で参加する必要性を改めて強調します。

先月、IMFにおいて、合意の道筋がついた特別引出権の6千5百億ドルの新規配分については、透明性と説明責任をもって活用され、アフリカ諸国に真に利益がもたらされることを期待します。

国際開発協会の増資についても、年内の合意に向けて、引き続き積極的に取り組みます。

(民間部門強化)

第二に、アフリカの民間部門の強化が必要です。

私の政権は、「グリーン」と「デジタル」を新たな成長の原動力と位置づけており、この分野で大きな潜在力を持つアフリカでのビジネスを積極的に後押ししていきます。

民間セクターの発展のため、債務持続可能性に配慮しつつ、2022年までの3年間で、アフリカ開発銀行と共同で、35億ドルの支援を行います。

(持続可能な成長のためのインフラ投資)

第三に、アフリカの持続可能な成長と「より良い回復」のためには、適切なルールの下でのインフラ整備が不可欠です。

アフリカへの連帯にコミットする各国は、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」に則ったインフラ投資を推進すべきです。

加えて、アフリカ諸国自身の能力強化も重要です。日本は、債務管

理能力の向上を含め、様々な技術支援を実施していきます。

(結語 TICAD8に向けて)

御列席の皆様、

来年チュニジアで開催されるTICAD8は、国際社会が団結し、アフリカ開発の針路を示す重要な機会となります。

我が国は、今後とも、アフリカやフランスを始めとする関係国・機関と連携しながら、躍動するアフリカの社会・経済の構築に貢献していきます。

御清聴ありがとうございました。